

コンクリートライブラリ 119
表面保護工法 設計施工指針 (案)
正誤表

設計施工指針 (案)

●2005年9月27日 更新

頁	行・箇所	誤	正																																											
1	条文(4)2行目	[施工編] および [維持管理編] によるものとする。	[施工編], [構造性能照査編] および [維持管理編] によるものとする。																																											
13	解説表 2.2.1	樹脂およびシートの種類と塗装工法 厚膜形が対応する欄の「アクリロイル」	「アクリロイル」																																											
17	解説表 2.4.1	<p style="text-align: center;">解説表 2.4.1 表面含浸工法に期待される性能と適用効果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">期待される性能</th> <th rowspan="2">シラン系</th> <th colspan="2">けい酸塩系</th> <th rowspan="2">その他の系</th> </tr> <tr> <th>けい酸リチウム系</th> <th>けい酸ナトリウム系</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中性化抑制</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塩化物イオンの侵入抑制</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>凍結融解抵抗性</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>化学的侵食抑制</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アルカリ骨材反応抑制²⁾</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td></td> </tr> <tr> <td>美観・景観に関する性能³⁾</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はく落抵抗性⁴⁾</td> <td>—</td> <td>△</td> <td>△</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 表中の○は適用対象, △は適用する場合検討が必要 (他の工法との併用など), —は適用対象外を示す。 2) アルカリ骨材反応抑制は標準的な透水性により判定した。 3) 美観・景観に関する性能は外観維持を基本に判定した。 4) はく落抵抗性は付着性を基本に判定した。</p>		期待される性能	シラン系	けい酸塩系		その他の系	けい酸リチウム系	けい酸ナトリウム系	中性化抑制	△	△	○		塩化物イオンの侵入抑制	○	—	○		凍結融解抵抗性	○	—	○		化学的侵食抑制	—	—	—		アルカリ骨材反応抑制 ²⁾	○	○	△		美観・景観に関する性能 ³⁾	○	○	○		はく落抵抗性 ⁴⁾	—	△	△		
期待される性能	シラン系	けい酸塩系				その他の系																																								
		けい酸リチウム系	けい酸ナトリウム系																																											
中性化抑制	△	△	○																																											
塩化物イオンの侵入抑制	○	—	○																																											
凍結融解抵抗性	○	—	○																																											
化学的侵食抑制	—	—	—																																											
アルカリ骨材反応抑制 ²⁾	○	○	△																																											
美観・景観に関する性能 ³⁾	○	○	○																																											
はく落抵抗性 ⁴⁾	—	△	△																																											
19	解説表 2.5.1	<p style="text-align: center;">解説表 2.5.1 断面修復工法に期待される性能と適用効果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">期待される効果</th> <th colspan="3">断面修復材の種類</th> </tr> <tr> <th>セメントモルタル</th> <th>ポリマーセメントモルタル</th> <th>ポリマーモルタル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>力学的特性</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ひび割れ抵抗性</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>中性化抑制</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>塩化物イオンの浸入抑制</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>凍結融解抵抗性</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>化学的侵食抑制</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>アルカリ骨材反応抑制¹⁾</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>美観・景観に関する性能</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>はく落抵抗性²⁾</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		期待される効果	断面修復材の種類			セメントモルタル	ポリマーセメントモルタル	ポリマーモルタル	力学的特性	○	○	○	ひび割れ抵抗性	△	○	△	中性化抑制	○	○	○	塩化物イオンの浸入抑制	△	△	○	凍結融解抵抗性	○	○	○	化学的侵食抑制	△	△	○	アルカリ骨材反応抑制 ¹⁾	△	△	○	美観・景観に関する性能	△	△	○	はく落抵抗性 ²⁾	○	○	○
期待される効果	断面修復材の種類																																													
	セメントモルタル	ポリマーセメントモルタル	ポリマーモルタル																																											
力学的特性	○	○	○																																											
ひび割れ抵抗性	△	○	△																																											
中性化抑制	○	○	○																																											
塩化物イオンの浸入抑制	△	△	○																																											
凍結融解抵抗性	○	○	○																																											
化学的侵食抑制	△	△	○																																											
アルカリ骨材反応抑制 ¹⁾	△	△	○																																											
美観・景観に関する性能	△	△	○																																											
はく落抵抗性 ²⁾	○	○	○																																											
32	解説表 4.3.1 8行目	浸透性	含浸性																																											
32	解説表 4.3.1 8行目	浸透深さ (含浸工法)	含浸深さ (表面含浸工法)																																											
33	解説表 4.3.4	表中の「既設構造物・劣化度・進展期」と「表面含浸工法」が対応する欄。	△に修正する。																																											
33	解説表 4.3.5	表中の「新設構造物」と「表面含浸工法」が対応する欄。	○に修正する。																																											
33	解説表 4.3.7	表中の「既設構造物・劣化度・進展期, 加速期, 劣化期」と「表面含浸工法」が対応するそれぞれの欄が○, △*1, △*1 と表示。	それぞれ, — に修正する。																																											
59	6.3.2 b) 4行目	$W_p = W_{pi} - W_{p0}$	$W_p = W_{p0} - W_{pi}$																																											
59	6.4.2 b) 6行目	また, 試験体を浸せきする水は, 1回/2週間の割合で入れ替える。	また, 試験体を浸せきする水は, 1回/2週間の割合で入れ替える。(削除する。)																																											
66	6.4 2行目	水面が差が下がった場合には,	水面が下がった場合には,																																											

頁	行・箇所	誤	正
142	⑤	アクリロイル塗装工法	アクリロイル塗装工法
151	表- 2.4	静値	静置
152	(9) 1行目	酸素しゃ断試験	酸素しゃ断性試験
159	表- 3.4 中央上の欄	アクリロイル	アクリロイル
170	(1) のタイトル	北海道の橋梁	九州の橋梁
204	資料 表- 1 銘柄 G と含浸工程が対応する欄		清水噴霧→ 60 min 自然乾燥→薬剤 150 g 含浸→ 60 min 自然乾燥→清水噴霧→ 90 min 自然乾燥→薬剤 50 g 含浸→ 90 min 自然乾燥→清水噴霧→湿布養生 (14 日間)
	銘柄 G と備考が対応する欄		空欄とする
	銘柄 H と備考が対応する欄		2 液型 (主剤：添加剤=30：1)
	銘柄 G と含浸回数に対応する欄		2
	銘柄 G と含浸量に対応する欄		200
256	表 1.3 圧縮強度の方法欄		JIS A 1108 φ5 × 10

●2006 年 4 月 26 日 更新

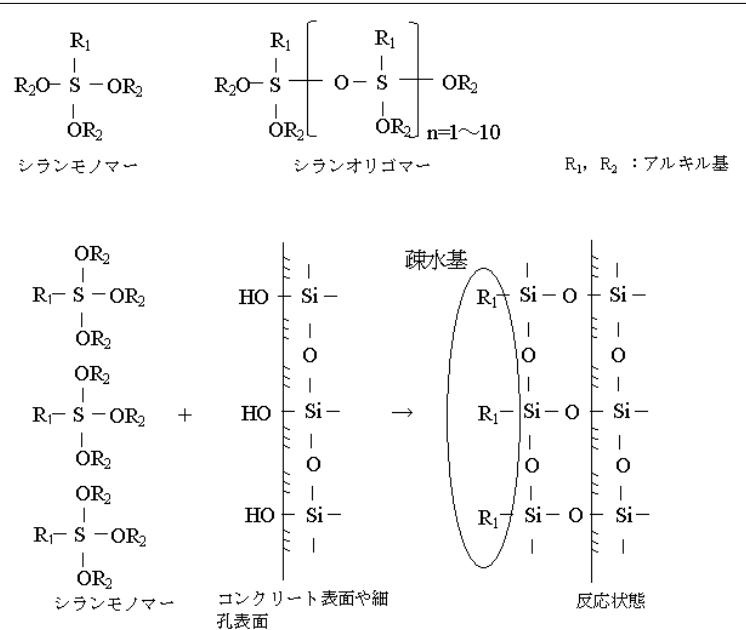
頁	行・箇所	誤	正
17	最下行	1 行抜けている	「断面修復工法には左官工法, 吹付け工法および充てん工法があり, 採用する工法は, 一般には, 修復の対」を挿入

●2013 年 11 月 27 日 更新

頁	行・箇所	誤	正			
117	(6.7) 式の D の解説	ここで, D: 塩化物イオンの見かけの拡散係数 (cm ² /年)	ここで, D: 塩化物イオンの見かけの拡散係数 (m ² /年)			
117	表 6.2	正				
			遮塩性 (mg/cm ² ・日)	膜厚 (μm)	見かけの拡散係数 (cm ² /年) (cm ² /sec)	
	有機系被覆材	アクリルゴム系	< 3.40E-04	436	2.97E-04	9.43E-12
		ポリブタジエン系	< 7.00E-04	90	1.26E-04	4.01E-12
		エポキシ樹脂系 1	< 9.00E-05	380	6.86E-05	2.17E-12
		エポキシ樹脂系 2	< 3.40E-04	190	1.30E-04	4.11E-12
		エポキシ樹脂系 3	< 1.00E-03	380	7.62E-04	2.42E-11
	(土木学会規準 評価基準値)		< 1.00E-04	500	1.00E-04	
	無機系被覆材	ポリマーセメントペースト アクリル系 (P/C=35%)	3.90E-03	1000	7.82E-03	2.48E-10
		ポリマーセメントペースト アクリル系 (P/C=38%)	1.23E-03	900	2.22E-03	7.04E-11

工種別マニュアル編

●2005年9月27日 更新

頁	行・箇所	誤	正
8	解説 図 2.2.2、2.2.3	アクロイル樹脂	アクリロイル樹脂
8	解説 図 2.2.3	シリコン樹脂	シリコーン樹脂
10	解説 表 2.2.1(縦、横の項目)	アクロイル樹脂	アクリロイル樹脂
19	3.2.5 解説 11 行目	pH3~10%濃度	pH3:10%濃度
19	3.2.5 解説 11 行目	A~D	A~D
27	解説 表 4.2.3 構造物の環境条件	塩素イオン	塩化物イオン
29 ~ 32	解説 表 4.4.1~解説 表 4.4.9	溶質	溶出
34	3 行目	巻末資料集 1 (有機系被覆工法)	設計施工指針(案)「表面保護工法 工種別資料編(有機系被覆工法)」
38 ~ 39	解説 表 4.6.1, 解説 表 4.6.2	二酸化炭素透過阻止性 透水阻止性 水蒸気透過阻止性 (透湿性) 酸素透過阻止性 塩化物イオン透過阻止性	二酸化炭素しや断性 しや水性 水蒸気しや断性 酸素しや断性 塩化物イオンしや断性
48	5.4.2【解説】の6行目	師匠	支障
56	最後の行	塗りがすれ	塗りむら
148	解説 図 2.2.1	誤 R1, R2 の記号が見えにくい	正  <p>シランモノマー シランオリゴマー R₁, R₂ : アルキル基</p> <p>シランモノマー コンクリート表面や細孔表面 反応状態</p>

解説 図 2.2.1 アルキルアルコキシシランモノマーおよびオリゴマーの構造式と反応

頁	行・箇所	誤	正
189	解説 12行目	土木学会「補修・補強吹付けコンクリート設計・施工指針(案)」	土木学会「吹付けコンクリート指針(案)[補修・補強編]」
194	解説 5行目	土木学会「補修・補強吹付けコンクリート設計・施工指針(案)」「同マニュアル」	土木学会「吹付けコンクリート指針(案)[補修・補強編]」
199	解説表 2.3.1.1		付着強度温冷繰返し欄の数値を追加した。左官・速硬：－，吹付け・普通：1.50，充てん・普通：1.63，充てん・速硬：－
202	解説表 2.3.2.1		付着強度温冷繰返し欄の数値を追加した。左官・普通：1.6～2.4，左官・軽量：2.0～3.0，左官・速硬：1.6～3.0，吹付け・普通：1.5～2.4，充てん・普通：1.6～2.2
203	解説 7行目	(樹脂系コンクリートと～)	(ポリマーコンクリートと～)
210	3.2.4 解説 11行目	～無機系被覆工マニュアルに記載されるシート工法を参考～	～無機系被覆工マニュアルに記載されるシート工法およびメッシュ工法を参考～
219	4.4 解説 6行目	「5.3 施工計画の照査」	「5.4 施工計画の照査」
222	解説表 4.4.2.1		項目中の「振動負荷時に施工した付着強度」および「圧縮強度(初期強度)」を削除。
239	3行目	CL.100「コンクリートのポンプ施工指針」[平成12年版]を	「コンクリートのポンプ施工指針」を
244	5.11 解説 3行目	「5.7 施工準備」	「5.6 施工準備」
245	解説図 5.10.2	解説図 5.10.2	解説図 5.11.2
246	5.11.3 解説 25行目	CL.100「コンクリートのポンプ施工指針」[平成12年版]に	「コンクリートのポンプ施工指針」に
250	14行目，22行目	表面被覆マニュアル	他の工種別マニュアル
253	6.1 条文 3行目	断面修復の施工	断面修復工
256	4行目	「5章 断面修復の施工」	「5章 施工」